

# 「若き薩摩の群像」整備事業

令和2年9月



## ごあいさつ



このたび「若き薩摩の群像」に土佐藩出身の高見弥一と長崎出身の堀孝之、2人の像が加わり、日本の近代化の大きな原動力となった薩摩藩遣英使節団 19 人全員が揃いましたことは、大変感慨深いものがございます。制作者の中村晋也先生をはじめ、整備にあたりご尽力賜りました関係の皆様方に深く感謝申し上げます。

群像が建立された昭和 57 年から 38 年。時代は平成、令和と移ろい、鹿児島中央駅となった陸の玄関口周辺の街並みは、機能と魅力を充実させながら大きな変貌を遂げております。

新たな「若き薩摩の群像」が、果敢に挑戦を続ける鹿児島の象徴として、広く発信されますとともに、多くの皆様方に末永く愛され続けることを心から願っております。

鹿児島市長 森 博幸

## 「若き薩摩の群像」整備事業の概要

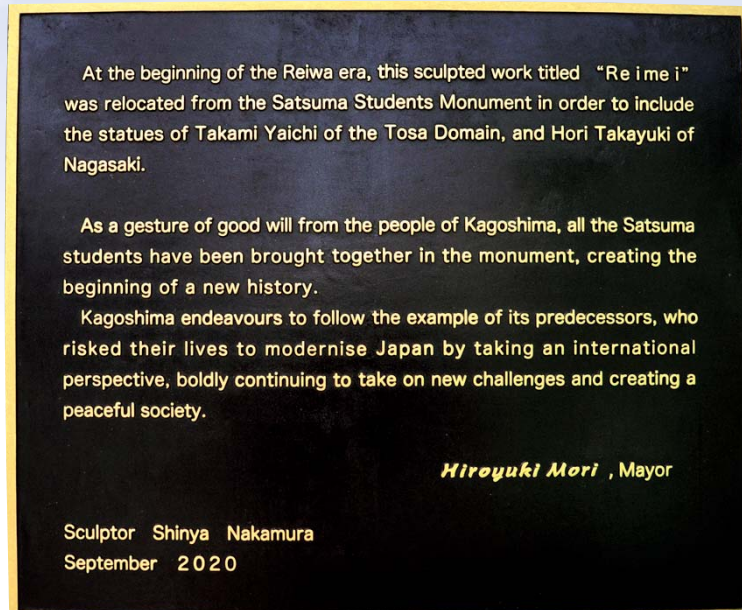
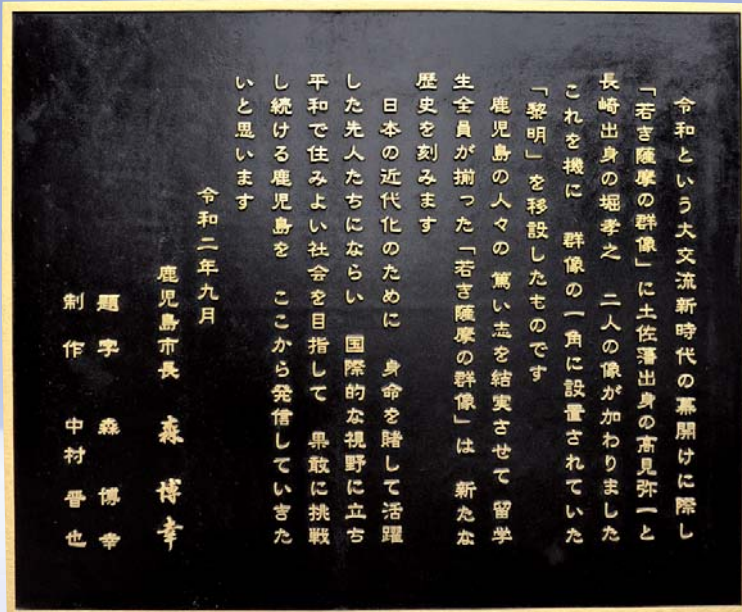
「若き薩摩の群像」整備事業は、令和という大交流新時代の幕開けに際し、陸の玄関口である鹿児島中央駅の東口駅前広場において、賑わいとゆとりのある都市空間の創出を図るため、実施いたしました。

今回、土佐藩出身の高見弥一と長崎出身の堀孝之の二人の像は、これまで長沢鼎（磯永彦輔）の設置されていた箇所に設置しました。また、長沢は文物像“黎明”の設置されていた箇所に、さらに“黎明”は、群像の横にそれぞれ移設しました。



# 碑文と“黎明”

黎明の台座側面に設置した和英2枚の碑文



## 文物像“黎明”

積み重ねられた本は、留学生たちが学んだ西洋の文化や先進技術、広範な分野の知識を象徴しています。律動的にリズムを刻む時計は、急速に変化する未来への胎動を暗示し、鐘は、新しい時代の幕開けを報せる高らかな鐘の響きを表現しています。土台となる机は、彼らの優れた受容力を表し、柔らかく垂れた布には、日本と西洋の文化的融合と友愛への願いが込められています。

制作者 中村 晋也

## 留学生の一行



新納 久脩 (にいり ひさのぶ)

1865年、団長として留学生を率いてヨーロッパ各地を訪問。イギリスで買った紡績機を磯の工場にすえつけ、イギリス人技師の指導のもと、日本最初の近代的紡績業を始めた。帰国後家老となる。



町田 久成 (まちだ ひさなり)

留学生の監督役としてイギリスに渡る。帰国後は明治政府において外交関係の仕事に携わる。東京上野の国立博物館（現在の国立博物館の初代館長）



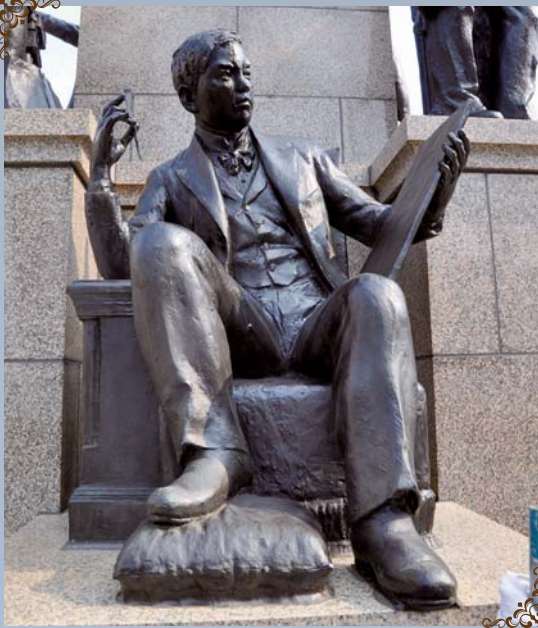
松木 弘安 (まつき こうあん のち寺島宗則)

1862年に幕府の第1次遣欧使節の一員としてヨーロッパに渡る。留学生とともに、イギリスへ向かい、政府を相手に外交活動を行い、対日政策を転換させた。



五代 友厚 (ごだい ともあつ)

留学生派遣を提案した中心人物。イギリス国内やヨーロッパ大陸を視察、紡績機械の買い付けにあたる。大阪に最初の商法会議所（初代会頭）や株式取引所、大阪商業講習所（大阪市立大学）を建て、大阪の商業の発展に力を注ぐ。



**市来 和彦** (いちき かずひこ)

海軍測量術を学ぶ。慶応3年(1867)渡米、アナポリス海軍兵学校を卒業後、明治6年(1873)帰国。海軍兵学校長として近代日本海軍の人材育成に尽くした。



**磯永 彦輔** (いそなが ひこすけ:改名:長沢 鼎)

幼少のため勉強の科目を決めずに渡英。ただ一人、スコットランドの古都アバティーンへ移る。慶応3年(1867)渡米、以来、生涯をアメリカで送り、広大なぶどう園の経営とぶどう酒製造に努め、ぶどう王といわれた。



**町田 実積** (まちだ さねつみ)

海軍測量術を学ぶ。町田久成の弟。小松帯刀の養子となる。



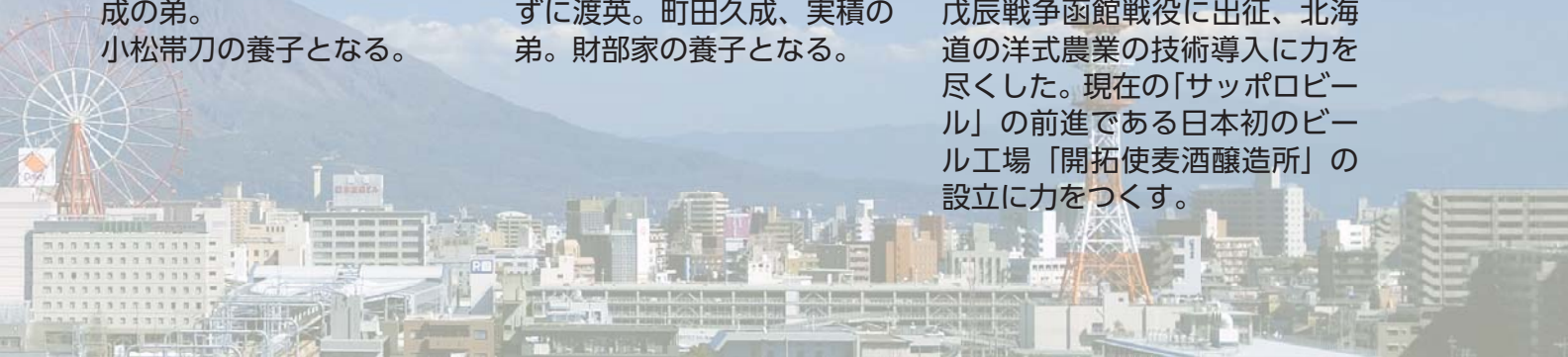
**町田 清次郎** (まちだ せいじろう)

幼少のため勉強の科目を決めずに渡英。町田久成、実積の弟。財部家の養子となる。



**村橋 直衛** (むらはし なおえ)

ロンドン大学で陸軍学術を学ぶ。戊辰戦争函館戦役に出征、北海道の洋式農業の技術導入に力を尽くした。現在の「サッポロビール」の前進である日本初のビール工場「開拓使麦酒醸造所」の設立に力をつくす。





**鮫島 尚信** (さめしま なおのぶ)

文学を学ぶ。森、磯永と共に慶応3年(1867)渡米。明治元年帰国、わが国初の在外公館の初代弁務使(日本を代表する外交官)、主にフランスに駐在し特命全権公使を務める。

**中村 博愛** (なかむら はくあい)

化学を学ぶ。留学の翌年渡仏、3年間フランスでの留學生活ののち明治元年(1868)帰国。藩開成所のフランス語教授、のち公使(オランダ・ポルトガル・デンマーク)として、外交官として活躍



**吉田 清成** (よしだ きよなり)

海軍測量術を学ぶ。慶応3年(1867)7月渡米、ラトガース・カレッジで政治経済学を学ぶ。明治3年帰国。新政府の財政問題と条約改正に取り組む。駐米公使、農商務次官を務める。



**東郷 愛之進** (とうごう あいのしん)

海軍機械術を学ぶ。戊辰戦争で戦死。



**名越 時成** (なごや ときなり)

陸軍学術を学ぶ。戊辰戦争に従軍。



**畠山 義成** (はたけやま よしなり)

陸軍学術を学ぶ。慶応3年(1867)渡米、ラトガース・カレッジで法律・政治などの社会科学を学ぶ。明治4年帰国、わが国の教育制度の確立に着手、初代東京開成学校長(現在の東京大学)。



**森 有礼**  
(もり ありのり)

海軍測量術を学ぶ。慶応3年(1867)渡米、翌年帰国、わが国初の駐米大使となる。駐英公使を経たのち、教育制度の確立と近代化に大きな業績を残す。初代文部大臣。



**高見 弥一** (たかみ やいち)

海軍測量術を学ぶ。元土佐藩士で、留学の翌年帰国。のち鹿児島で中等学校教員となり数学を教える。



**堀 孝之** (ほり たかゆき)

一行の通訳、長崎出身。新納、五代と共にイギリス国内やヨーロッパ大陸を視察、のち岩下方平らのパリ万博使節団にも随行。



**田中 盛明** (たなか もりあき)

医学を学ぶ。留学の翌年渡仏、慶応3年(1867)帰国。兵庫県生野鉱山局長、生野鉱山に洋式鉱山技術を取り入れるなど、日本鉱山業界の発展に尽くした。

1982年  
【昭和57年】

西鹿児島駅 駅前広場



鹿児島中央駅 東口駅前広場

2020年  
【令和2年】



あなたとわくわく



マグマシティ  
鹿児島市

鹿児島市建設局建設管理部公園緑化課

〒892-8677 鹿児島市山下町11番1号

電話 代表 099-224-1111  
直通 099-216-1366